あけましておめでとうございます
埼玉県生協連
2011 Winter No.37
写真ニュース
埼玉県のマスコット コロン
発行:埼玉県生活協同組合連合会　〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5　TEL:048-844-9971　URL http://saitama.kenren-coop.jp

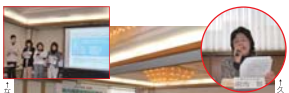
誰もが安心してくらせる地域づくりに向けた生協の役割について学びました

埼玉県生協役職員研修委託事業
今、あらためて地域福祉を考える～地域福祉の現状と行政の動向や生協の果たす役割～

11/10

38人(未加盟生協含む)が参加し、日本生協連の尾崎氏を講師に学習会を行いました。地域社会の弱体化、少子高齢化がさらに進行し地域のつながりも希薄化し孤立化が深まっています。生協の取り組みとして、生協の特色を活かしたサポート力の発揮、地域ネットワークの強化、組合員・地域住民が主人公となった場づくり等の社会的役割の発揮がめざされ、そのためにも充進生協の地域福祉活動推進のポイントを学ぶことが大切です。そして、さらに生協が役割を果たしていくためには、現在各地域で取り組まれている「点」での活動を地域の中で「面」の広がりにしていくことが求められています。

「人づくり」と「計画づくり」が大切と話す尾崎氏



12/1

埼玉県消費者団体交流会委託事業
2010年度第2回県内消費者団体交流会

活発に楽しくなごやかに交流し元気とパワーを充電

県内の消費者団体やくらしの会のネットワークを強め、県や市町村の消費者行政の充実をはかることを目的に開催し、23団体55人が参加しました。久喜市くらしの会と過純消費者団体生活消費者被害をなくす会から「消費者団体活動のにぎわ～つながり」をテーマにした活動報告となくす会の活動委員による電話レンタルのキャンセル未掃の徹底を求める訴訟の経過についての寸劇が披露されました。その後、各団体の活動報告と日頃の悩みなどを中心に活発な交流を行いました。

1～2人参加のグループの参加者の声

平成22年度埼玉県消費生活功労者表彰
会員2生協と県生協連の3人の方が受賞

消費生活への貢献が認められ、上田県知事と記念撮影

11/26

消費者団体・生協役職員を含む17人の受賞者の表彰式が埼玉県知事公館で行われました。県域団体・地域団体・生協を代表して3人の方が上田県知事より表彰状を授与されました。上田県知事は、「日頃からの消費者行政への協力の感謝と今後も消費者被害防止や解決へのお力添えを」とあいさつされ、受賞者を代表して埼玉県生協連の大磯専務補佐が謝辞を述べました。

埼玉県生協役職員研修委託事業
「生協における監事監査の環境整備に向けて」監事監査の役割や重要性について学びました

12/16

日本生協連の宮部氏を講師に、35人(未加盟生協含む)が参加し、学習会を行いました。生協法改正に伴い、独立した監査機関として監事の役割が強化され、監事監査の充実がガバナンスの基本問題として重要になっています。実践的課題として監事のポジション、監事会と監事構成や監事体制に関する課題、生協法5年後の見直しに関連した制度課題等について説明しました。

埼玉県生協ネットワーク協議会第3回協議会
彩の米センターで埼玉県産の「米」「野菜」の学習と見学をしました

いろいろな種類の米を比較する参加者

10/27

埼玉県産米等について学習するために久喜市の彩の米センターの見学を行い、34人が参加しました。ライスラン21では、埼玉県産野菜と、病害虫に強い稲の特長を生かし、従来よりも農薬の使用を減らした「彩のかがやき」について学習しました。また、今年の猛暑の影響で規格外となっていますが、味は変わりませんとの説明もありました。彩の米センター(精米工場)では、DVDによる学習後、精米の様子を見学しました。

埼玉消費者被害をなくす会 学習会&ワークショップ
賢い消費者になるため契約書について学習

11/16

知って納得!　契約書のチェック方法～トラブルは事前の確認で防げます～をテーマに、消費生活専門相談員の島田さんを講師に迎え51人が参加し学習しました。前半の学習会では、契約は申し込みをして承認した時点で成立することや、契約の種類、トラブルの事例、契約書のチェック項目のポイントについて説明がありました。後半は、4グループに分かれ、実際に相談のあった契約書を使ったワークショップを行い、結果発表し理解を深めました。

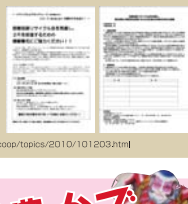
さいたまコープ

コープ秋父の森植林プロジェクト 3年間で1,000本植林

11月28日、コープ秋父の森で「最後の植林イベント」を開催し、子ども12人を含む17家族をはじめ、コープ秋父の森ボランティアなど63人が、コナラ、クヌギ、スダジイの苗木約300本を植えました。昼食には、竹の開伐材を新に膠汁と焼き芋を作り、季節の味を楽しみました。コープ秋父の森の植林プロジェクトは、2008年にスタートし今回まで1,000本の植林が完了しました。今後、植えた苗木が元気に育つよう手入れを行い、十数年後にクワコウやムササビが舞う森づくりをすすめます。

ドゥコープ

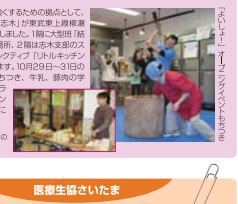
2Rを促進するための請願署名に取り組んでいます



ドゥコープは、2R(リデュース、リユース)を促進するための「容器包装リサイクル法」改正に向けて、国会請願署名に取り組んでいます。11月現在、4039筆(11月26日までの集計)の署名が寄せられています。ドゥコープでは、この請願署名の取り組みを1月31日までですすめます。2R請願署名の取り組みの詳細についてはドゥコープホームページをご参照ください。
http://www.pal.or.jp/dd%2Dcoop/topics/2010/101203.html

生活クラブ生協

くらぶメゾン志木 オープン



たくさんのお客様でにぎわうオープン当日

地域とのつながりを強くするための拠点として、3つめの「くらぶメゾン志木」が東武東上線柳瀬川駅前のビルにオープンしました。1階に大型用「結(ゆい)」の共同購入の販売、2階は志木支部のスペースとワークルーム「ライフ(リトルキッチン樹)」のレストランがあります。10月29日～31日のオープニングでは、もちつき、牛乳、豚肉の学習会、そば打ち、オペラ歌手の方によるミニコンサートなどを行い大いに盛り上がりました。

→リトルキッチン樹(もり)の肉まんが大好評!

埼玉県勤労者生協

沃土会公開確認会

エコ・チャレンジの人参畑で栽培の様子について生産者から報告を受ける組合員

11月20日(土)、コープ産地たしで組合員交流でもつながりの深い伏土会(埼玉県深谷市)の公開確認会に参加しました。公開確認会とは、食の安全の確保と、環境保全型農業の推進に向け、産地での栽培や生産の履歴を生協組合員と生産者がともに公開の場で確認しあうものです。当日は組合員交流の歴史や内容の報告、参加者全員が圃場に向かい、エコ・チャレンジの人参とかぶを対象に栽培現場見学や物流、圃場の確認を行いました。

この紙は再生紙を使用しています　SOFT INK　印刷は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

医療生協さいたま

療生協さいたまのウォークイベント開催 ～参加費は「世界の子どもにワクチン」日本委員会へ寄付～

班や支部での取り組みに加え、参加のひろがりを目的に広れても参加できるウォークイベントが、11月に県内5カ所で開かれ、743人が参加しました。11月13日(土)の見沼代用水西縁コース(さいたま市)には170人が参加。晩秋のウォーキング日和の中、色づいた木々を眺めながら、自分にあった速さでウォーキングを楽しみました。参加費300円は、全額、「世界の子どもにワクチンを」日本委員会に寄付されます。

埼玉県労働者共済生協

全労済ぐりんぽう川越 秋のイベント「救急救命講習」を開催しました

11月28日、ぐりんぽう川越にて11名の参加で「救急救命講習」を開催しました。川越地区消防組合の3名の職員の方々より、応急手当の基礎知識やAEDの使用手順をはじめとした救命処置の流れ、止血法などの応急処置について、体験談をもとにわかりやすい講習をしていただきました。参加者より、「実際の場面で、どこまで対応ができるか不安な点もありますが、少しでも落ち着いて対応できるよう日頃の講習を役立てていきたい」との声がありました。

子どものその保育生協

やり遂げた喜びに輝く人形劇

年長組の子どもたちは、人形劇づくりに取り組みました。初めに和紙を細かくちぎり、ふのりと混ぜて紙粘土をつくり、人形の顔をつくりました。人形劇の題材を決め、せりふを考えるのも全て自分たちの手作りです。12月4日、本格的な舞台で人形劇を演じ、家族の温かい声援を受けました。長い取り組みの間には、上手くいかなくて苦労する場面や仲間と助け合う姿があり、一人ひとりの成長や輝きを見ることができました。

埼玉大学生協

埼玉大学生協が50周年を迎えました

10月19日、埼玉大学生協創立50周年の記念式典が170名余の出席で盛大に行われました。埼玉大学学長、上坪喜郎先生からは、全国学生委員会の活動が大学の魅力づくりに貢献していると、活躍への評価をいただき、さらに大学の発展に生協の存在が重要であるとのご挨拶をいただきました。「埼玉大学生協のあゆみ」の紹介、吹奏楽部による記念演奏の後、祝賀会ではこれまで埼大生協に関わってこられた方々の交流で大いに盛り上がりました。